

IES-R お名前 _____ (男・女 _____ 歳) 記入日 ____年 ____月 ____日

下記の項目はいずれも、強いストレスを伴うような出来事にまきこまれた方々に、後になって生じることのあるものです。 _____ に関して、**本日を含む最近の1週間**では、それぞれの項目の内容について、どの程度強く悩まされましたか。あてはまる欄に○をつけてください。(なお答に迷われた場合は、不明とせず、もっとも近いと思うものを選んでください。)

	(最近の1週間の状態についてお答えください。)	0. 全くなし	1. 少し	2. 中くらい	3. かなり	4. 非常に
1	どんなきっかけでも、そのことを思い出すと、そのときの気もちがぶりかえしてくる。					
2	睡眠の途中で目がさめてしまう。					
3	別のことをしていても、そのことが頭から離れない。					
4	イライラして、怒りっぽくなっている。					
5	そのことについて考えたり思い出すときは、なんとか気を落ち着かせるようにしている。					
6	考えるつもりはないのに、そのことを考えてしまうことがある。					
7	そのことは、実際には起きなかったとか、現実のことではなかったような気がする。					
8	そのことを思い出させるものには近よらない。					
9	そのときの場面が、いきなり頭にうかんでくる。					
10	神経が敏感になっていて、ちょっとしたことでどきどきしてしまう。					
11	そのことは考えないようにしている。					
12	そのことについては、まだいろいろな気もちがあるが、それには触れないようにしている。					
13	そのことについての感情は、マヒしたようである。					
14	気がつくと、まるでそのときにもどってしまったかのように、ふるまったり感じたりすることがある。					
15	寝つきが悪い。					
16	そのことについて、感情が強くこみあげてくることがある。					
17	そのことを何とか忘れようとしている。					
18	ものごとに集中できない。					
19	そのことを思い出すと、身体が反応して、汗ばんだり、息苦しくなったり、むかむかしたり、どきどきすることがある。					
20	そのことについての夢を見る。					
21	警戒して用心深くなっている気がする。					
22	そのことについては話さないようにしている。					

**IES-R日本語版質問紙は、ダウンロードし、ご自由にお使いください。
ただし許可なくウェブ上や出版物に転載することはご遠慮ください。**

IES-R (Impact of Event Scale-Revised) 改訂出来事インパクト尺度日本語版

(作成：飛鳥井望 公益財団法人東京都医学総合研究所)

* IES-Rは旧IES (Horowitz et al, 1979) の改訂版として、米国のWeissらが開発した心的外傷性ストレス症状を測定するための自記式質問紙である (Weiss, 2004)。旧IESは侵入症状7項目、回避症状8項目の計15項目より構成されているが、IES-Rは過覚醒症状6項目を追加し、さらに旧版の睡眠障害を入眠困難と中途覚醒の2項目に分け、計22項目より構成されている。IES-Rは災害から個別被害まで、幅広い種類の心的外傷体験者のPTSD関連症状の測定が簡便にでき、横断調査、症状経過観察、スクリーニング目的など、すでに我が国でも広く活用されている。また心理検査法として医療保険適用を認可されている (診療点数80点)。

* **使用法** 「教示」の空欄部分 (下線部) に当該の外傷的出来事 (例：地震、事件被害、事故) を記入し配布する。

* **採点法** 各項目得点 (0-4) を合計し、全体ないし下位尺度ごとの得点 (ないし平均得点) とする。

* 原著者による下位尺度構成は次のとおりである (下記Weiss論文参照)。

侵入症状 Intrusion (8項目) : 1, 2, 3, 6, 9, 14, 16, 20

回避症状 Avoidance (8項目) : 5, 7, 8, 11, 12, 13, 17, 22

過覚醒症状 Hyperarousal (6項目) : 4, 10, 15, 18, 19, 21

(注：「2.中途覚醒」は他の侵入症状との相関がより高かったため侵入症状に分類され、「19.想起による身体反応」は過覚醒症状追加6項目に加えられていたものである。)

* 日本語版はPTSD関連症状のスクリーニング尺度として、十分優れた信頼性と妥当性を検証されている (Asukai et al. 2002)

* 再テスト信頼性：2週間後の再テスト (N=114) スピアマン順位相関係数 $r=.86$ ($p=0.0001$)

* 内部一貫性 (4集団：工場労働者；阪神震災；毒物混入事件；地下鉄サリン事件被害者)

Cronbach's α 係数 = .92 - .95 (Total); = .88 - .91 (Intrusion)

= .81 - .90 (Avoidance); = .80 - .86 (Hyperarousal)

* カットオフ — 合計得点24 / 25 (PTSD+partial PTSDのスクリーニング目的)

早期 (毒物混入事件) 感度=.89, 特異性=.93, 陽性的中率=.80, 陰性的中率=.96

長期 (阪神淡路震災) 感度=.75, 特異性=.71, 陽性的中率=.44, 陰性的中率=.90

《ただしカットオフはあくまでスクリーニングないしは診断補助のためであり、臨床面接による診断に代わるものではない。》

* 文献 (日本語版、英語原版の引用は下記となります。)

➤ Asukai, N., Kato, H., Kawamura, N., Kim, Y., Yamamoto, K., Kishimoto, J., Miyake, Y., Nishizono-Maher, A.: Reliability and validity of the Japanese-language version of the Impact of Event Scale-Revised (IES-R-J): Four studies on different traumatic events. *The Journal of Nervous and Mental Disease* 190:175-182, 2002.

➤ Weiss, D.S.: The Impact of Event Scale-Revised. In: Wilson, J.P., Keane T.M. eds., *Assessing psychological trauma and PTSD (Second Edition)*. The Guilford Press, New York, 2004, pp168-189.

Reliability and Validity of the Japanese-Language Version of the Impact of Event Scale-Revised (IES-R-J): Four Studies of Different Traumatic Events

NOZOMU ASUKAI, M.D.,¹ HIROSHI KATO, M.D.,² NORIYUKI KAWAMURA, M.D.,³ YOSHIHARU KIM, M.D.,³ KOHEI YAMAMOTO, M.A.,⁴ JUNJI KISHIMOTO, M.A.,⁵ YUKO MIYAKE, Ph.D.,^{1,3} and AYA NISHIZONO-MAHER, M.D.¹

The authors developed the Japanese-language version of the Impact of Event Scale-Revised (IES-R-J) and investigated its reliability and validity in four different groups: workers with lifetime mixed traumatic events, survivors of an arsenic poisoning case, survivors of the Hanshin-Awaji earthquake, and survivors of the Tokyo Metro sarin attack. Evidence includes retest reliability and internal consistency of the IES-R-J. Posttraumatic stress disorder (PTSD) and partial PTSD cases indicated significantly higher scores than non-PTSD cases. The IES-R-J can be a useful self-rating diagnostic instrument particularly for survivors with PTSD symptoms as a clinical concern (PTSD + partial PTSD) by using a 24/25 cutoff in total score. In analysis of scale structure, the majority of intrusion and hyperarousal items were subsumed under the same cluster, whereas avoidance items made up a separate cluster. Female patients indicated higher scores than male patients. A negative weak correlation between age and the score was found only among female earthquake survivors. The IES-R-J can be used as a validated instrument in future international comparative research.

—*J Nerv Ment Dis* 190:175–182, 2002

Table 1. Discriminative values of the IES-R-J at each cut-off level for clinical diagnoses of PTSD

Study 2 (N=73) full PTSD vs Non-PTSD + partial PTSD							
cut-off	SE	SP	PPV	NPV	EF	PLR	NLR
19/20	1.00	0.72	0.41	1.00	0.77	3.59	0.00
24/25	0.83	0.84	0.50	0.96	0.84	5.08	0.20
29/30	0.83	0.85	0.53	0.96	0.85	5.65	0.20
34/35	0.67	0.87	0.50	0.93	0.84	5.08	0.38
39/40	0.58	0.93	0.64	0.92	0.88	8.90	0.45
AUC =	0.93						
Study 2 (N=73) full PTSD + partial PTSD vs Non-PTSD							
cut-off	SE	SP	PPV	NPV	EF	PLR	NLR
19/20	1.00	0.80	0.62	1.00	0.85	5.00	0.00
24/25	0.89	0.93	0.80	0.96	0.92	12.22	0.12
29/30	0.83	0.93	0.79	0.94	0.90	11.46	0.18
34/35	0.72	0.95	0.81	0.91	0.89	13.24	0.29
39/40	0.56	0.98	0.91	0.87	0.88	30.56	0.45
AUC =	0.97						
Study 3 (N=86) full PTSD vs Non-PTSD + partial PTSD							
cut-off	SE	SP	PPV	NPV	EF	PLR	NLR
19/20	1.00	0.56	0.19	1.00	0.60	2.29	0.00
24/25	1.00	0.67	0.24	1.00	0.70	3.00	0.00
29/30	0.75	0.72	0.21	0.97	0.72	2.66	0.35
34/35	0.63	0.79	0.24	0.95	0.78	3.05	0.47
39/40	0.63	0.85	0.29	0.96	0.83	4.06	0.44
AUC =	0.85						
Study 3 (N=86) full PTSD + partial PTSD vs Non-PTSD							
cut-off	SE	SP	PPV	NPV	EF	PLR	NLR
19/20	0.80	0.61	0.38	0.91	0.65	2.03	0.33
24/25	0.75	0.71	0.44	0.90	0.72	2.61	0.35
29/30	0.60	0.76	0.43	0.86	0.72	2.48	0.53
34/35	0.45	0.82	0.43	0.83	0.73	2.48	0.67
39/40	0.40	0.86	0.47	0.83	0.76	2.93	0.69
AUC =	0.78						

SE:sensitivity, SP:specificity, PPV:positive predictive value, NPV:negative predictive value, EF:efficiency, PLR: positive likelihood ratio, NLR: negative likelihood ratio, AUC: area under the curve

Study 2 : 毒物混入事件被害者 (事件発生後 3 ヲ月) ; Study 3 : 阪神淡路大震災被災者 (発災後 3 年 10 ヲ月)